

令和5年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
1 授業実践力の向上 (教科指導の充実)	① 国語科「読むこと」の資質・能力向上を目指した授業改善に取り組みながら、自分の担当している教科の授業にも目を向け授業改善に取り組む。	研究研修課	昨年度の単元計画の見直しをする授業改善に加え、より学習指導要領を意識した「主体的・対話的で深い学び」の授業を目指した授業改善に全員が取り組んでいく必要がある。	【努力指標】 担当している教科で「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業計画シートを書き、検討をする。	担当している教科で授業計画シートを1枚以上書き、他の教員の作成したものを含め検討を3回以上行った教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 (9、1月)
2 地域社会との連携	① 学校、児童、保護者等の関係者が交流及び共同学習の意義やねらい等について共通理解し、実際の活動において主体的な活動を促す交流活動の充実に取り組む。	小学部	コロナ禍で居住地校交流、学校間交流を昨年度、3年ぶりに実施した。相手校に趣旨を理解してもらい、児童の実態を踏まえた内容で実施できた。本校の子どもたちについて理解してもらえるよい機会となったが、学年、回数が限定されたなかであったため、さらなる充実を図る必要がある。	【成果指標】 両校で児童の実態を踏まえ、活動内容を設定する。当日、児童が主体的に活動したり、笑顔で関わったりする場面が見られたかを振り返る。	当日の活動の中で児童が主体的に活動する姿が見られたり、活動後の振り返りで児童が「楽しかった」等の感想を述べたりすることができた割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	学級担任を対象としたアンケートによる評価 (9、1月)
	② 生徒が地域で販売活動を行い、地域社会で様々な人と主体的に関わる姿勢を育成する。	中学部	昨年度、JAのとわかばとの地域での販売活動を年2回行った。参加した生徒は、マナーを守り、販売活動を意欲的に行った。地域の方との関わりもできたが、1回目と2回目では別の生徒グループだったので年度内の積み上げができなかった。 継続した地域での販売活動を通した生徒の成長を促す必要がある。	【成果指標】 年5回の販売活動を行う。 (JA4回、徳田祭り1回)当日生徒が主体的に販売活動に取り組む態度を生徒の振り返りシートで、教員が判断する。	校外での販売活動を通して、地域の様々な人との関りにおいて成長が見られた生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	対象生徒にふりかえりシートおよび教師によるアンケート調査(9月、1月)

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考		
2	地域社会との連携	③	生徒が高等学校・農業法人等と連携した実習を行い、やりがいを感じ、地域に貢献する態度の育成に取り組む。	高等部	これまで、校外での販売活動や農業実習等に取り組んできたが、これをさらに発展させ、やりがいや地域に貢献する態度の育成に重点を置く必要がある。	【成果指標】 今年度の取り組みにおいて、対象の本校生徒および教師が十分成果を得ることができた。	事後のアンケートで「取り組んでみてよかった」等やりがいを実感した生徒と教師の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	対象生徒および教師によるアンケート調査 (9月、1月)
3	安心・安全な学校づくり	①	中・高等部の該当の生徒を対象にSNS等ネットワーク使用において、他者とのやりとりを適切に行う学習に取り組む。	生徒指導課	スマートフォン・タブレット所持者が増加し、日常的に友人等とネットワークを通じてやりとりする生徒が増加している。その中で他者との不適切な内容のやりとりなどの課題があり、これらに関する学習に継続的に取り組む必要がある。	【努力指標】 各学年や学級で、SNSを含めたネットワーク使用において、他者とのやりとりを適切に行う学習に取り組む。	ネットワーク使用で他者とのやりとりを適切に行う学習を、各期に1回以上取り組んだ学級の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	学級担任を対象としたアンケートによる評価 (9、1月)
		②	メディアやICT機器の活用において、児童生徒の心身の健康を保つ適切な関わり方が身につく学びに取り組む	健康推進課	メディア機器の利用が増加し、目の健康や生活リズムの乱れ等が懸念される。健康な生活について、学校と家庭の意識を高める必要がある。	【努力指標】 発達段階に応じた「すこやかカレンダー」を作成、配布し、健康な生活を心がけることができるように取り組む。	6月10月に提出してもらう「すこやかカレンダー」の家庭の提出割合が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	保護者を対象としたアンケートによる評価 (9、1月)